

外国人を知る人の声

南波隆貴さん(写真右)
南波玉萍さん(写真左)

外国人を対象に日本語教育を行うほか、私生活の相談を受けるなど、夫婦二人三脚で外国人と日本人の橋渡しも行っている



「国」ではなく その人「個人」を見てほしい

このことを学ばせてもらっています。
玉萍さん 私は約20年前に中国から来日しました。私自身が外国出身ということ、皆さんの抱える悩みやストレスの多くを理解することができません。そんな苦労を一人で抱え込まないよう日々の交流の中でも気を配るようにしています。

「今後「多文化共生」の考え方を深めるために必要なことは

隆貴さん 長年、外国人の皆さんと交流をしています。やはり「多文化共生」は難しいテーマであると感じています。文化も習慣も言葉も違う人同士が分かり合い、心を開くことは容易なことではありません。しかし、初めのうちはすれ違いがちな気持ちも、付き合いを重ねることで、お互いに相手の言葉や行為を「良い意味」に受け取り、気持ちを通じ合わせることもできるはず。玉萍さん 確かに「郷に入っては郷に従え」とよく言われます。ただ、「生活習慣」は徐々に慣れてきますが、「食生活」はなかなか変えられないのが実体験です。小さい頃から食べ慣れた故郷の味や食べ方はどこの国に行っても忘れられないものです。日本の皆さんからすると、素材や調理方法、おいなどに違和感を覚える部分があるかもしれませ



「お二人の活動について教えてください」
隆貴さん 燕市国際交流協会が主催する「外国人のための日本語講座」の講師や、妻と二人で市内の学校で中国人のお子さんの日本語指導とサポートなどを行っています。多くの仲間・関係者の協力と支援があるからこそできる活動です。
玉萍さん 公民館での中国語教室、企業の通訳・翻訳、夫の日本語教育のサポートなどのほか、外国出身の皆さんの相談を受けることも多いです。

「交流する中で意識していることはありますか」

隆貴さん 私が外国人の皆さんと日本語の勉強をするときは、親しみやすさと、笑いを取り入れ「心を解きほぐす」ことを意識しています。また、一方的に日本語を教えるのではなく、互いに学び合い交流することで、私自身も外国人の皆さんから多

んが、頭ごなしに否定するのではなく、相手の文化に関心を持ち理解してみることが大事なのではないでしょうか。「違い」を否定しないことが「多文化共生」の第一歩だと考えます。

「市民の皆さんへメッセージをお願いします」

玉萍さん 私は日本に来てから、出来るだけ皆さんの日本の皆さんと積極的に交流するように心がけてきましたし、夫もそういった機会をつくらせてくれました。そのおかげで、日本語の上達だけでなく、習慣や振る舞い方も自然と身に付いてきたように思います。現在、日本に来て日の浅い外国出身者にとっても、市民の皆さんとの交流が非常に大きな財産となるはず。隆貴さん 以前と比べると、皆さんの外国人の皆さんが燕市にいます。そうした中で接する機会の少なさも、「外国人」というだけで心を閉ざしたり毛嫌いする人がいることも否定できません。その人の「国」ではなく「個人」に目を向けてほしいと思います。外国人の皆さんとの交流は、自身の視野を広げ、発想を豊かにしてくれるものとも言えます。ぜひ、機会をみて地域の交流会などに参加してみてください。きっと新たな出会いがあり、交流のきっかけになるでしょう。

燕に暮らす

外国人実習生をサポートします

「外国人実習生を受け入れたきっかけと仕事ぶりについて教えてください」
 私どもの会社では現在、ベトナム人3人・ネパール人2人が外国人実習生として働いています。もともと4年ほど前から職人の人材不足を理由に受け入れをはじめました。彼らを見て率直に思うのは「仕事に対する意欲が高い」ことです。仕事をしながら賃金を得ていることはもちろんですが、仕事以外の時間にも自主的に学んで技術の習得を目指す姿に感心しています。

「外国人共同宿舎の開設の経緯や実際の暮らしぶりはいかがですか」

外国人共同宿舎「かがやき」は、燕に住む外国人実習生の住居の確保が難しいという問題を解決するために開設しました。実際に市内の企業から問い合わせも増えており、実習生受け入れのハードルを下げる役割として期待をしています。

「今後の展望について教えてください」
 今後、彼らのような外国人材は、人手不足が進む燕にとって欠かせない存在になっていくでしょう。機械ではカバーできない、人の技術が必要な分野にとって、必ず通用する人材だと感じています。そんな彼らに、燕に来て良かったと思ってもらうためにも、技術習得の手助けはもちろん、地域の皆さんとの交流も積極的にを行い、公私共に充実した生活を送れるようサポートしていきたいと思っています。



井上 康広 さん
 輝匠株式会社 代表取締役

外国人実習生の積極的な受け入れのほか、外国人共同宿舎「かがやき」を開設し、燕で生活する外国人のサポートに力を注いでいる

一方で、ごみの分別や生活音など、地域の人に注意を受けたこともありました。ただ、本人たちは悪気があるわけではなく、日本の生活マナーを理解してもらい、習慣化できるようにサポートすることで、今では見違えるほど改善ができています。

「仕事面以外で、外国人実習生との交流はありますか」

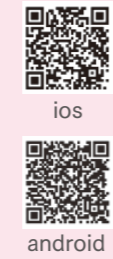
休日にはイベントなどを積極的に企画し、社員全員での交流を図っています。「外国人は怖い」という印象がある人もいられるかもしれませんが、社員との交流会の中で、初対面の小さな子どもたちとも優しく触れ合っている姿はとても印象的でした。彼らは私生活の中でも日本の文化に興味を持ち、積極的に学ぼうという姿勢も感じます。縁があって燕市にやって来てくれたのであれば、楽しみや交流の機会をできるだけつくってあげたいと思っています。



▲外国人共同宿舎「かがやき」
 現在、市内2社で働く8人の実習生が生活を行っている(杉名地内)。

カタログポケットを使ってみませんか

「カタログポケット」とは、スマートフォンやタブレットから「広報つばめ」などを閲覧できるサービスです。自動翻訳機能・読み上げ機能で10の言語で読むことができます。市民の皆さんも外国語の勉強として活用してみてもいいかも！

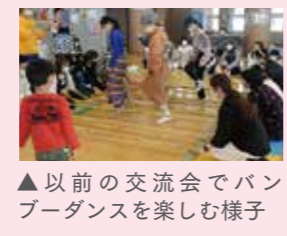


【配信中のコンテンツ】
 ・広報つばめ
 ・洪水、土砂災害ハザードマップ
 ・外国出身者向け
 燕市生活ガイドブック など



つばめ多文化交流会に参加しませんか！

市と燕市国際交流協会では、外国人の皆さんとの触れ合いを通して、他の国の文化や習慣を体験できる交流会を開催しています。開催の詳細については、市ホームページまたは、「広報つばめ」でお知らせします。



▲以前の交流会でバンドダンスを楽しむ様子